

議会広報公聴常任委員会報告書

令和5年度議会広報研究会

- (1) 目的 議会広報公聴常任委員会として技能研鑽・情報収集を目的とする。
- (2) 期間 令和5年8月2日(水)
- (3) 場所 神戸市(県民会館パルテホール)
- (4) 出席者名 議長 河野 照代 委員長 宮宅 良 副委員長 細田 武男
委員 木村 晴恵、竹内 基就
- (5) 主催 兵庫県町議会議長会
- (6) 概要 「伝わる議会報の編集ポイント」及び広報クリニック
一般社団法人 自治体広報公聴研究所
代表理事・広報アドバイザー 金井 茂樹 氏

研修1 議会報作成の枠組み等

広報マインドとして、3つの心がけが必要である。誰に(ターゲット)何を(情報の範囲)どのように(表現・目的・意義)を意識し、住民の多様な価値観や生活様式、利害対立や複雑な関係がある中で、広報紙の役割を認識することが重要である。伝えるのではなく、伝わる議会報にするためには、企画力と編集力が求められる。この度の研修では、編集力における情報の構造化と表現に重点を置き、見出し、リード文、本文、図表など素材を編集要素として組み立てること、そして、視認性・可読性・判読性・デザイン性に配慮することで紙面の表現につなげることが、広報紙に求められており、読者である住民の関心と理解、そして、それらに対応した改善をすることで、読みやすさにつながっていくことを学んだ。講師から研修において個別具体的な説明があったことから、本委員会として共有しながら取り入れていきたい。

研修2 14市町広報紙クリニック

研修1に引き続き、講師の金井先生による県内12町及び養父市、加東市の議会だよりのクリニックにおいて、本町のはりま議会だよりの発行No.258は、おおむね好評を得ることができた。指摘箇所は、見出しの色分けやリード文が不足していること、予算特別委員会の質疑のページについて

で見出しが目立たず分かりにくいことなどであった。いただいた改善点を今後の紙面づくりに取り入れていきたい。